

事務事業名		親と子の食事セミナー事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	04 安心が確保されたまちづくりの推進		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成16 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 平成 年度～ 年度 全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	15 子育て支援の推進			
	基本事業名	01 子どもの心身の健やかな成長支援			
根拠法令		食育基本法		予算科目 会計 01 款 04 項 01 目 01 事業 18	
所属	部課名	生活福祉部保国保年金課(保健介護センター)			
	係名	保健指導係	電話 0192-27-3111 内線 437		
	係名				
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 子どもの健やかな食習慣を培い、食を通じた心の健全育成を図るための事業。 小学生とその保護者を対象に、親と子のふれあい料理教室として実施。広報等で地域子供会を募集し、応募のあった子供会に講師(食の匠等)を派遣し、そば打ちや飾り寿司づくり等の調理実習を行う。 この事業は、次世代育成支援対策交付金の国庫補助を受けている。 事業費は、講師謝金、材料費、食育教材用冊子、栄養指導用消耗品などに支出される。				全体計画(期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称 単位	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 実施回数 回	
小学生とその保護者を対象に親と子のふれあい教室を実施。		イ	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ	
前年度と同じ			
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
子どもと保護者		名称 単位	
		カ 子どもの人数 人	
		キ 保護者の人数 人	
		ク	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
食を通じて、親と子の交流を図るとともに、家族団らんの大切さ、食事の大切さを知る機会にする。		名称 単位	
		サ 参加者数 人	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		シ 参加した子どもで食事作りが楽しいと感じた人数 %	
子育てに関する不安や悩みを軽減・解消してもらう。		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
投入量	事業費	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円	200	214	173	124	77
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	100	107	87	62	38
	人件費	事業費計(A)	千円	300	321	260	186	113
		正規職員従事人数	人	2	4	2	2	1
		延べ業務時間	時間	200	336	245	410	58
		人件費計(B)	千円	800	1,344	980	1,640	232
		トータルコスト(A)+(B)	千円	1,100	1,665	1,240	1,826	345
活動指標	ア	回	7	6	9	7	4	3
		イ	174	423	427	247	107	
		ウ						
対象指標	カ	人	110	76	168	84	80	2133
		キ	64	347	295	163	350	4266
		ク						
成果指標	サ	人	110	76	163	78	80	37
		シ	-	-	-	-	-	91
		ス						

事務事業ID	0297	事務事業名	親と子の食事セミナー事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
子どもを取り巻く食生活の変化、市内小学生などの肥満児の増加、子どもの朝食欠食率の増加等をきっかけに平成16年度から児童ふれあい交流促進事業を開始。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
事業自体は変わらない。子どもの食育に必要な事業である。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
日本型食生活(和食)の普及や伝統料理の継承は、食育として子どもに伝えるためにも必要である。本来家庭で行うべきことが、働く主婦の増加などにより欠如しつつあり、それを支援することが必要であると言われている。また、参加した保護者からは、子供に料理を作らせることは、面倒ではあるが大変良い事業であると言われている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由]  この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 次代を担う子ども達が健やかで心身ともに健康で丈夫に育つことは、将来の大船渡市にとって、とても重要なことである。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由]  なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 昔ながらの伝統料理の普及は、食文化を継承するためにも必要であるが、食育として子どもに伝えることも大切である。また、本来家庭で行うべきことが働く主婦の増加などにより欠如しつつある。それを支援することが必要である。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由]  対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 現在、地域子ども会を対象に実施しているが、学校を対象とすることも可能である。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由]  成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 対象を拡大することにより、子どもの食生活の現状と望ましい食生活を理解する者が増加する。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容]  事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 現代の子どもを取り巻く食環境はめまぐるしく変化しているため、食の問題がなおざりにされる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある  (具体的な手段、事務事業) 学校が積極的に食育関連事業を展開し、市はそれを支援する。 ☒ 統廃合・連携ができる [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由]  目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 教育委員会が食育を推進することで、事業の統合・連携が可能となる。
効率性 評価	事業費の削減余地	☒ 削減余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない [理由]  成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 内容を検討し実施することにより、削減可能である。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☒ 削減余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない [理由]  やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 現在は補助事業であるが、食生活改善推進員及び担当者で実施可能である。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある [理由]  3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 公平・公正である [理由]  事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 参加者からの負担金の徴収はむずかしいが、市は決められた予算を負担し、それ以外を参加者で負担という方法は実施可能と考える。

事務事業ID	0297	事務事業名	親と子の食事セミナー事業
--------	------	-------	--------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 参加者からは食事作りが楽しいと感じた、また親子で作りたいといった声が多く、好評である。 食育関連事業は、「大船渡市食育推進計画」に基づき、関係機関や庁内他課との連携を図りながら推し進めていくことが必要となる。																																
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	公平性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																																
効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																																
公平性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																																
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☐ 現状維持</td></tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☒ 公平性改善)</td></tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 現在、地域子ども会を対象に実施しているが、対象を学校等に拡大できるよう関係機関と調整する。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☒ 公平性改善)					(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持																														
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☒ 公平性改善)																																		
		コスト																																
		削減	維持	増加																														
成果	向上		●																															
	維持			×																														
	低下		×	×																														
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 各関係機関との連絡、とくに教育委員会との連携、学校の理解と協力が必須である。																																		

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	国保年金課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由 事業目的は妥当であるが、類似事業との調整が必要と考える。																														
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	公平性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																																
効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																																
公平性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																																
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☒ 事業統合・連携</td><td>☐ 現状維持</td></tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 類似事業との調整を図りながら、事業は継続する。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☒ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☒ 事業統合・連携	☐ 現状維持																														
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																		
		コスト																																
		削減	維持	増加																														
成果	向上		●																															
	維持			×																														
	低下		×	×																														

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
